

## 海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	並河 健
所属機関	がん研有明病院 消化器内科 上部消化管内科
・参加した国際学会・会議名	19th ISDE World Congress for Esophageal Diseases : 第 19 回国際食道学会学術集会
渡航期間	自 2023 年 9 月 7 日 至 2023 年 9 月 13 日
・研究内容 ・国際学会・会議内容	The prediction strategy of submucosal invasion in superficial Barrett's adenocarcinoma by the combination of histology in biopsy and magnifying endoscopy
<p style="text-align: center;">研究成果 （ 要約 : 800 字 ）</p> <p>バレット食道腺癌の深達度診断に関するのオーラル発表を行った。</p> <p>粘膜下層浸潤の有無は治療方針に関わるが、従来の内視鏡検査・超音波内視鏡検査を用いた診断法の精度は十分とは言えないのが現状である。よってその診断精度向上に寄与する所見を抽出するべく検討を行い、粘膜下層浸潤を示唆する所見として、腫瘍径&gt;20mm、複合型の肉眼型、組織生検での低分化成分検出の3因子を得た。その中で特に、組織生検で低分化成分が検出された場合に最も強い関連性があり（オッズ比 24.8）、さらに食道腺癌中の低分化成分を、拡大内視鏡を用いる事で予測できる可能性が示唆された。</p> <p>発表後の質疑応答では、オランダ人医師から更に詳細な深達度診断（粘膜下層浸潤の度合いを軽度、中等度、高度に分ける）を行う事は可能であるのか、また日本で他にその様な研究が進んでいるのかについての質問があり、また座長であるイギリス人医師からは、本邦がリードしてきた拡大内視鏡観察法の汎用性について質問があった。バレット食道腺癌の深達度診断と拡大内視鏡診断への注目度の高さ、そして本研究の意義深さについて感じる事ができた。</p> <p>また学会参加を通して、我が国以外の講演を多数聴講する事ができた。例えば本邦で食道癌の多くを占めるのは扁平上皮癌であるが、欧米ではバレット食道腺癌の有病率の方が高い為、国内の学会では聞く事出来ない大規模な研究内容についても知る機会となった。その他にも本年末に改訂予定となっているESGE(欧州消化器内視鏡学会)ガイドラインについてなど、現在のトレンドについて知る事ができた。それらは今回の発表に関連する内容でもある為、今後更に研究を進めていく上での知識が整理され、大変有意義なものであったと感じた。</p> <p>以上、助成を頂いた事により自施設の研究結果を国外へ発信する、また最新の知見を得る貴重な機会となった。発表内容に関しては今後論文化を進めていく予定である。(800字)</p>	